

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成23年4月1日（木）0:35～1:30

場所：東京電力本館1階101AB会議室

先方：記者約50名（カメラ5台）

当方：原子力設備管理部

福島第一原子力発電所

本店広報部

配布資料：なし

【質疑】

Q. 原子炉建屋の底面に大きな損傷は確認されているか。

A. たまり水等で確認できないところもあるが、現時点では大きな損傷は確認されていない。

Q. たまり水の水位は。

A. 詳細は分かっていない。

Q. 新たにドイツ製の放水車が来るという話を聞いたが事実か。

A. 詳細は聞いていないが、色々とご支援のお話はいただいている模様。

Q. アメリカの船が水を運んでいると聞いたが事実か。

A. 確認する。

Q. 海水系冷却ポンプの復旧の目途は。

A. 仮設ポンプ自体は、すでに調達が進んでいるが、1～3号機については、RHR系の健全性が確認できていないため、ポンプが復旧しても、すぐに冷却に入れるわけではない。

Q. 原子炉への注水量は。

A. 1号機は133トン/分(8t/h)、2号機は150トン/分(9t/h)、3号機は116トン/分(7t/h)。

Q. どこから注水しているのか。

A. 1号機は通常の注水ライン。2, 3号機は低圧注水系、再循環系の戻りライン。ただ、圧力容器内は二重構造になっており、燃料のある下部にはシュラウドという炉内構造物があるため、ノズルは違うが、シュラウドの外側に注水し、シュラウド下部を回って圧力容器の下から上に注水することとなる。

Q. PHSは使用できるようになったのか。

A. 基地局の復旧に取り組んでおり、タービン建屋や屋外等、使用範囲が広がってきている。

Q. 250Vはどのような機器に使用しているのか。

A. ポンプやバルブなどの駆動系に使用している。なお、125Vは主に制御系。

Q. ホウ酸の注入量は。

A. 外部放水の際にホウ酸を混ぜて注入した経緯があるが、量については把握していない

い。

Q. 水などの放射性廃棄物の処理方法はどう考えているのか。

A. 一般的には、固化化する方法があるが、今回の処理については、現段階では決まっていない。

Q. 1Fのサブドレンポンプの数は。

A. 発電所全体で約130。

Q. タンクの残量は。

A. 現時点では、サプレッションプール水サーボタンク、復水貯蔵タンク、復水器、ペレット貯槽タンクへの移送を検討しているが、合計で8,000t程度。

Q. たまり水やトレチの水全てを移送できないのではないか。

A. 現在の想定では、全ては移送できないかもしれないが、まずは、必要な箇所から移送していく。

<広報部よりトレチとサブドレンの分析結果の訂正について説明>

- ・トレチとサブドレンの分析結果について、テルルの分析結果に関して疑わしい点があることが判明した。
- ・そのため、今回お示ししたものについて、他の核種も含めて、改めて精査させていただきたいと考えている。
- ・ついては、大変申し訳ないが、本日お示しした資料について、全ての数値を再度確認した上で、明朝以降に、再度お示ししたい。
- ・前回も訂正させていただいたにも関わらず、今回も同様な事象が発生し、深くお詫び申し上げる。

Q. テルルだけなのか。

A. 現時点では、テルルの数値に疑わしい点があると判明しているが、その他の核種についても、改めて確認しているところ。

Q. 分析は核種ごとに行うのか。テルルの結果が、他の核種の結果に影響を与えることがあるのか。

A. 核種ごとに分析している。テルルの結果が、他の核種に影響を与えることはない。

Q. 定性的には、これまで聞いた説明の傾向は変わらないのか。

A. 正確な数値が出ないと確たることは申し上げられないが、傾向は変わらないと考える。

Q. なぜ、おかしいと考えたのか。

A. 実務担当者が、確認している中で、疑わしいと判断したものと思われる。

以上

4/1 22:00

2

記者会見概要

日時：平成23年4月1日（金）17:30～18:30

場所：東京電力本館3階ABC会議室

先方：記者約70名（カメラ7台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

福島第一原子力発電所

本店広報部

配付資料：

- ・福島第一原子力発電所の状況
- ・当社福島第一原子力発電所、福島第二原子力発電所において得られた地震観測記録について（暫定）
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況
- ・福島第一原子力発電所仮設モニタリングポストによる定点計測状況
- ・福島第一原子力発電所1～3号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所1～3号機原子炉圧力容器周辺温度

質疑応答：

Q. 米軍のパージ船よりろ過水タンクへ送水があったとあるが、注水に使われている量は、2隻目の予定については。

A. 現在、ろ過水タンクへ移送中であり、圧力容器への注水にはいたっていない。量は1,300トンである。2隻目の予定に関しては、1隻目の船の作業状況を見て検討していく。

Q. 飛散防止剤について散布の量、広さ、散布した作業員数はそれぞれどれくらいか。

A. 試験拡散として、 200m^2 に対して散布。1平方メートルで2L、総量400L散布した。人員については確認させていただく。

Q. 津波は想定外と考えるか。2005年に「原発の安全性を求める福島県連絡会」から津波の危険性に対して勝俣社長（当時）へ申し入れがあったと聞いているが、その際のこととは考慮しなかったのか。

A. 申し入れがあったことは認識している。当社としては土木学会の評価指針

に基づいて、プロセスを踏んで評価していた。津波に関しては1号機では5.7m、2号機では、5.2mを想定していた。

- Q. 核種分析の誤りだが、核種変化を考慮した計算になっていないのか。
 A. その通りであり、テルル129mとテルル129は親子の関係ということを測定器に取り込んで無かったことが問題である。

- Q. 立坑等の監視カメラ設置の進捗状況は。
 A. 明日中に設置予定。

- Q. 福島原子力発電所事故統合対策本部が立ち上がってからの参加者を教えていただきたい。
 A. 確認させていただく。

- Q. 多重防護の考え方について、外部電源を失う可能性は。
 A. 外部電源が喪失することを想定して設計している。

- Q. 非常用発電機が1台起動しない確率や2台とも起動しない確率は何%と設定しているのか。
 A. 確認する。

- Q. 核種変換のプログラムの導入時期は。
 A. H16.10に現在のシステムに更新した。プログラムはその時から活用している。

- Q. プログラムの製作会社は。
 A. 「キャンベラ」という分析装置のメーカーである。

- Q. 3/31に採取している海水サンプリングの結果はいつ出てくるのか。
 A. まとまり次第報告させていただく。

- Q. 加速度等のデータがとれたのは中央制御室の電源が復帰したからか。
 A. そうである。

- Q. 想定した加速度だったのか。
 A. 今後、分析して参りたい。

Q. 放射性核種の定性分析はどこまで遡って見直すのか。

A. テルルを中心に過去の分析結果について再度見直しているところ。

Q. ヨウ素 131 が炉規則告示濃度限度の1万倍検出された値については変更はないか。

A. 変更しないと思う。

Q. 放射性物質の飛散防止剤を蒔いた後の評価は。

A. まだ評価できていない。

Q. 仮設ポンプは手配しているのか。

A. 手配済みである。

Q. 1号機は本日中にS P Tへ移送済みか。

A. CSTからS P Tへ移送しているところ。

Q. 静岡市長が貯水プールとして使えるものを提供したようだが事実関係は。

A. メガフロートを譲渡していただいた。容量等詳細については確認させていただく。

Q. 原子力部門にMETI出身者は何人いるか。

A. 確認させていただく。

Q. 役員が組織的に政治献金をしていると聞くが事実関係は。

A. 個人で実施していることであり、承知していない。

Q. 津波を評価している学会の出身者は電力会社出身者が多いと聞くが、信頼性がもてないのではないか。

A. 津波の評価は土木学会の指針に基づいて策定しており、土木学会は中立な組織であると考えている。

Q. ほとんど電力会社の社員と聞くがいかがか。

A. 大学関係者、他機関の方々もいる。

Q. 土木学会に参加している電力会社社員の方にこの現状についてどう考える

かコメントをいただきたい。

A. 確認させていただく。

Q. 発電所の作業員に対しヨウ素剤の配布はしているのか。配布している場合、

頻度、量は。

A. 必要に応じて服用している。頻度や量については確認させていただく。

Q. 事故細胞末梢神経細胞に問題は出でていないのか。

A. 確認させていただく。

Q. トレンチ内のたまり水移送の見通し時期は。また、線量の減少の見通しは。

A. 復水器、CST、SPT、仮設タンクへ保管したいと考えている。移送が終われば線量も測定する。

Q. 仮設タンクはたまり水の送料から考えると必要不可欠であると思うが、放射線防護は大丈夫か。

A. 線量、距離を踏まえ、遮蔽剤等検討してまいりたい。

Q. 飛散防止剤の商品名は。

A. クリコートC20グリーン

Q. A.P.Dを増やしたタイミングは。NISAから指摘を受けたから増やしたのか。

A. 本日から420台となっている。
これまで320台だったが、発電所で購入していた100台の健全性が確認され、本日から420台となっている。

以上

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成23年4月1日（金）12:30～13:05

場所：東京電力本館1階101AB会議室

先方：記者約50名（カメラ6台）

当方：原子力運営管理部

福島第一原子力発電所

本店広報部

配布資料：

- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて（4月1日 午前10時現在）
- ・福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ（4月1日 午前10時現在）
- ・福島第一原子力発電所 1～3号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況

質疑：

Q. 核種分析におけるTe-129、Te-129mの誤りとは、区分を間違えたということか。
A. Te-129、Te-129mに関する分析結果に誤りがあったと考えており、現在、精査中。

Q. 総量に変化はないという認識でいいか。

A. 誤って総量を多く報告したことになると思われる。

Q. 保安院がプログラムミスによるものと発言した模様だが、どうか。

A. その通り。プログラム補正が反映されていなかった。

Q. 過日発表したモリブデンやテクネチウムについても誤っていたのか。

A. そちらについても現在精査している。

Q. 作業員が携帯する線量計に関して保安院から注意を受けたとの情報があるが、事実関係およびその内容は。

A. 確認させていただく。

Q. 飛散防止剤の散布の状況についてはどうか。

A. 敷布予定場所において、昨日の雨の影響を確認しており、本日午前中は実施していない。問題なければ本日午後に散布する予定。

Q. 核種分析におけるプログラムミスは、海水モニタリングの結果にも影響を及ぼすのか。

A. 親子関係にある核種に対する補正について、しっかりとプログラミングされていないような状況であり、海水モニタリング結果にも同様に確認をしているところ。

Q. 分析結果の発表と取り下げを繰り返しているが、第三者機関に依頼するようなことは考えていないのか。

A. 他電力や第三者機関への依頼についても含めて、検討している。

Q. I-131 の分析結果に問題はないのか。

A. 問題ないと考えている。

Q. ミスのあったプログラムはいつから使っていたのか。

A. 検出器を更新した時より間違っていた。詳細な時期は確認させていただくが数年といったオーダーではないか。

Q. 散布する合成樹脂のメーカー、商品名を教えてほしい。

A. 確認させていただく。

Q. 核種分析プログラムはどこから仕入れているのか。

A. 2社の製品を使っており、1社のプログラムの補正がかかっていなかった。もう1社は確認しているところ。

Q. 2社のメーカー名を教えてほしい。

A. 確認させていただく。

Q. 核種分析の結果は誤って高い数値が出たということでいいか。

A. 詳細は確認中だが、補正の理屈から現在お示ししている数値より低い数字を報告できると考えている。

Q. いつ正しい値を報告できるか。

A. 一両日にはお示ししたいと考えている。

Q. 仮設ポンプを設置することで海水系の冷却が実施できるということか。

A. 仮設ポンプを設置することで、海水を送るラインが完成されるが、その先の原子炉側の配管およびポンプ、バルブや熱交換機等の健全性の確認を実施する必要がある。海水系ポンプの手配が出来たため実施できる作業から行つたもの。

Q. 米軍のはしけ船からの真水の供給状況はどうか。

A. 現在、港に接岸されろ過水タンクへのホース敷設の作業を行っているところ。

Q. 港からろ過水タンクまでの距離は。

A. 詳細は不明だが、1 km程度ではないか。

Q. コンクリートポンプ車から撮影された映像を確認したが、配管が断裂するなど、かなり破損しているが、どのような状況である解説願いたい。

A. 映像を確認させていただく。

Q. ストレーナーを交換したと聞いているが、どの系統のストレーナーと交換したのか。

A. 海水を注入した影響なのではないか。

A. 燃料プールの冷却浄化系のストレーナーを取り外した。現在注水しているのはろ過水であり、純粋と比べ不純物があることから、メッシュにつまりが出たもの。

Q. ストレーナーは数多くあるので、今後もプラントを回すたびにそういう事象が起きるのではないか。

A. フィルターをついているところは考慮する必要があると思う。

Q. 爆発事故直後の作業員の線量について示してほしいと以前からお願ひしているがどうか。

A. 地震直後の線量計の集計が終わっていないことについてだと思うが、3/11、12 の集計はとれておらず、現在、集計をしている最中である、もうしばらくお待ちいただきたい。

Q. 100mSVを超えている作業員は何人いるか。

A. 現時点で21人である。

Q. 線量計が足りないことから、作業員全員が携帯できていない点について、改めてどうか。

A. 確認させていただきたい。

Q. 保安院が1F南放水口の放射線濃度が基準の2000倍超という発表も取り消さなければならないと言っていたが、東電のデータが間違っている事が原因なのか。また、ければならないと言っていたが、東電のデータが間違っている事が原因のか。

A. 現在濃度について確認させていただいているため、今回の発表を控えさせていただいたところ。

Q. 今回の発表を控えるのであれば、レクチャー当初にその旨を言ってほしい。

A. 申し訳ない。

Q. 3人の被曝者と線量計の状況について、以前から教えていただくようお願ひしているが、未だにお聞かせいただいていない。代表者しか線量計を携帯していないかったのではないか。

A. あらためて整理してご回答させていただきたい。また、線量計については全員持っていたと認識している。

Q. 2, 3号機のトレンチの水の移送先はどこにするのか。

A. トレンチの水位については地上から1mを確保することとしており、監視装置の設置を進めている。まずはしっかりと監視し増加傾向ないこと確認をしていく。

以上